

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	SOUFIRST栄野比		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名 (兄弟児1組)	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和8年2月 16日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所なので小学生になってもそのまま事業所を安心して利用できる。	就学を意識した課題や活動の取り組みを行っている。	祝祭日や小学生が長期休み時には、異年齢が同じ空間にいる強みを生かし、お兄さん・お姉さんとの関わりを通して、成長への意欲を引き出していく。
2	本人のペースで進める『個別課題』と、お友だちと刺激し合う『小集団課題』。1日のなかで2つのプログラムを使い分け、多角的な視点から成長をサポートしている。	発達段階に合わせ、児発と放デイで最適なカリキュラムを設定し、集団での社会性育成と、個別の特性に合わせた課題提供を細かく使い分けられている。	事業所での個別課題等で「これができたので、お家ではこう褒めてあげてください」といった、事業所での成果を生活に繋げる具体的なフィードバックを強化していく。
3	活動プログラムが固定化しないように様々な意見を取り入れ提供している。	プログラムは子供達の意見や地域との関わり等も意識し取り入れている。	保護者様ご自身が参加・体験できるイベントの実施にも注力していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域との交流が少ない。	小学生も利用されているのでタイムスケジュールの組み方で難しい場合がある。	今後は時間の調整をしながら、保育園等との交流や同社内の事業所との交流も行っていく。
2	活動時十分にスタッフを配置できない場合がある。	小学生のお迎えの時間と、児発の活動時間が被ってしまい人手が必要な場合がある。	活動を個別や小集団に分けて複数回行っている。
3	家族に対して家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。	家族の相談事は積極的に聞き取りを行っているが、研修や情報提供の機会は行ってなかった。	保護者様の困りごとのニーズを聞き取りながら勉強会等の情報提供や開催を行っていく。